

\*\*\*\*\*

言語研究センター共同研究

## 「ロシア語習得基準の研究 新しいロシア語 習得基準策定のための諸問題の検討」活動報告

堤 正典・小林 潔

神奈川大学という現場を常に念頭におきながら  
2本の関連する学会報告を行った。

・小林潔・堤正典 「ロシア語教材を見直す―非  
専攻課程習得基準の策定を念頭に―」ロシア・  
東欧学会／JSSEES 2010年合同研究大会（20  
10年10月24日於天理大学）。

・堤正典・小林潔 「非専攻課程ロシア語教育を  
考える―習得基準・言語政策・IT―」日本ロ  
シア文学会60周年記念大会（第60回全国大会）  
（2010年11月6日於熊本学園大学）。

天理大での報告は神奈川大で用いている初修教  
科書をCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）とい

う通言語的な枠組みのうちに位置付けようとするものであり、熊本での報告はカリキュラムの見直しをしつつCEFRの行動中心主義と現場の教育との兼ね合いを論じたものである。

我々の習得基準策定に活かすべく内外のCEFR応用の情報収集や準拠教材のフォローもしている。日本独文学会ドイツ語教育部会・日本フランス語教育学会・大学英語教育学会の（第1回）英独仏合同シンポジウム「CEFRの日本への文脈化を考

える」（2010年8月20日於早稲田大）や日本ロシア語教育研究会の「サマーセミナー2010」（2010年8月21日於大阪大学）および「ロシア語教育研究集会2010」（2010年12月5日於大阪大学）などの学会に参加・聴講した（これらは他プロジェクトにも関わる）。

以上をふまえ現在、今年度版のロシア語習得基準をとりまとめ中であり、今後も検討を重ねていきたい。

\*\*\*\*\*